

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200023		
法人名	株式会社 ユニマツト リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	さがケアセンター そよ風		
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字坊所1523-53		
自己評価作成日	平成30年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年11月21日	外部評価確定日	平成31年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設では食事は主食のみグループホームにて作っており、副食等は館内の厨房で行っております。また、食事レクの企画を行いお手伝いをして頂き共同作業を目的としております。入居者様の気分転換や意欲向上を図る為に外出レクを行い、出来ない方は近くの散歩を実施しています。センターでの行事にも参加して頂く事で、他者との交流にも積極的に参加できる様に配慮を行っております。日常生活の中で、自分で出来ることを見つけて、出来るだけ自立した生活を続け、自分らしさを保つように「できない事はお手伝いする」姿勢で接するように心がけています。その他にターミナルケアへの取り組みを行っており、主治医や訪問看護との連携をして入居者様やご家族様の思いを尊重した支援を心掛けております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「一人ひとりにあった生活を支え、笑顔を守ります」の運営理念の実現を目指して、全職員が利用者を親身になって支援している。一人ひとりの尊厳を尊重し、適度な距離感を保ちつつ、利用者最優先の支援である。「信頼関係を築く」「利用者様のペースでの生活」を大事にした支援は、利用者の柔らかい表情となって現れている。家族懇談会やホーム独自のアンケートも実施され、家族の声をしっかりと受け止め、運営に活かしている。</p> <p>事業所は三階にあるが、エレベーターで自由に利用者も家族も出入りができ、身体拘束の無い介護とあいまって閉塞感もない。室内は明るく、静かで、清潔感がある。落ち着いた色調の居室、リビング、台所、浴室、トイレが安全に配慮された環境づくりで、職員は何時も利用者を見守っている。</p> <p>利用者の希望を聴いての食事、嗜好や健康に配慮した献立、周年祭、七夕飾り、スイカ割り、餅つき、ひな祭り、お花見やドライブ、外食、その他いろいろな行事や外出は、利用者の生活に変化や楽しみを感じさせている。デイケアに出向いて知り合いの方と交流したり、一緒にレクリエーションや体操に参加している利用者もある。</p> <p>主治医の往診や健康診断、訪問看護による夜間の対応、重度化や終末期に対する手厚い支援など、家族も医療面に不安を感じていない。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、事業所理念のもと管理者と職員はその理念を共有し実践に繋がっています。	理念を何時も職員が目につく玄関やスタッフルームに掲示している。毎日の申し送りやミーティングの際に理念を具体的に確認し、理念の共有を図っており、日常の支援に結び付けている。状況に応じて、管理者の適切な助言や指導も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を利用する事で、地域の老人クラブや区長・民生委員との繋がりを継続し、今後の活動の基盤作りを行っている。	事業所の開設以来、地域との結び付きを意識している。以前から定期的に行っていた溝清掃や道路のゴミ拾いなどの活動は、利用者の介護度や職員配置等の事情もあり、現在は区長や地域住民の理解を得て、ホームの都合がつく範囲内で行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会が精力的に認知症の人の理解や支援の方法を定期的に研修して頂けているので現在は行っていませんが、当施設での消防訓練へ地域の方に参加して頂いたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、民生委員様や老人クラブ様、行政からの参加があり、その中で得られた意見や助言をサービスの質の向上に活かしています。	年に6回開催され、入居者の状況、活動の様子、職員の異動、家族懇談会のアンケート結果、消防訓練、意見箱の開示状況などの報告が行われている。地域の清掃活動への参加、避難訓練の際の消防団の参加、地域の福祉避難場所の指定などの意見交換もあり、その後の運営に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者の方とは気軽に相談できる関係にあり、情報交換や課題解決の為に相談を行いサービスの質の向上に取り組んでいます。	運営推進会議に行政からの集積だけでなく、事業所からも鳥栖広域圏介護事務所や町役場に出向いて、相談や情報交換の機会も多い。要介護申請や生活援助等に関する事、地域と一体になった災害への備え、事業所が抱える課題の相談等、その他にも何かと行政側と顔なじみになる機会も多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の部署会議時に身体拘束に対する講習を実施し、職員全員が基準を正しく理解できるように努めています。	外部研修や法人自体の研修会等で身体拘束のないケアについての意識づけを図っている。これまで身体拘束の事例は無い。ホームが三階にあり、エレベーター利用の出入りだが、利用者は自由に乗り降りができる。その際は、三階の職員と、一階の職員で二重に確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内・外部研修で学ぶ機会を持ち、施設全体で共有しています。また身体拘束・虐待防止委員会を行い、日常的ケアを見直し利用者様の人権を尊重したケアが行われているか検討し防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待防止委員会の中で権利擁護に関する制度を理解する機会を持っています。その他に外部の研修会等に参加し、学ぶ機会を持ち活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、入居者様やご家族様に文書を用い説明を行い、不安や疑問点を尋ね理解し納得して頂くよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議やあんしん相談員の訪問の際にご意見をお伺い反映しています。また施設玄関とグループホーム玄関にご意見箱を設置して、入居者様やご家族様のご面会時等のご意見もご要望に沿うよう対応を行っています。	年2回の家族懇談会の開催の際にはアンケートを実施しており、面会時には必ず声をかけて意見や要望を直接に伺ったり、ご意見箱を設置する等、利用者や家族の意見や要望に耳を傾けている。家族の協力を得ながらの個別外食の実施は意見が支援に活かされた一例である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やグループホーム会議を毎月1回開催し、代表者や管理者は職員の意見を聞き、個別でも随時意見や提案を聞く機会を設け反映しています。	管理者は職員が意見が言える雰囲気づくりを心掛けている。経験豊富な職員のアイデアの引き出しからヒントを得ることも多い。入浴支援に同性職員介助の希望に応じて入浴支援専任のパートを導入する、男性利用者とのコミュニケーションの工夫、職員異動についての要望を代表者に伝える等、運営・支援に反映された例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りを心掛け、職員の希望も盛り込みシフトの作成も行っていきます。給与に関しては、能力や貢献にあった査定を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で研修委員会を設け、毎月議題に沿い全体会議の際に研修や報告を行っています。内・外部研修も積極的に参加を行いスキルアップに繋げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議の折りには、他の事業所との情報交換を積極的に行うよう心掛けています。近隣の事業所と相互訪問を行いサービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様一人ひとりの担当者を決め、信頼関係づくりに努めています。また、アセスメントを取りながら思いを傾聴することでご本人様の安心を確保する関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談の段階から、ご家族様が困っている事や不安や要望をお聞きし一緒に解決に向けて話し合いを行い、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後1ヶ月プランを立て、目標を決めてご本人様とご家族様が必要としている支援を見極めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図り、心身状態の変化に配慮を行い、楽しく安心した暮らしを送る事ができるよう支援を行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会時などでご家族様の思いや近況などを伺い、ご本人様とご家族様の絆を大切にしながら共にご本人様を支えていく関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時以前より交流のあるご友人の訪問や、ご家族の面会の継続の促しやお願いを定期的に行い。ご自宅への帰宅の機会を持って頂いています。	同じ施設内にあるデイケアに出かけて知り合いの方と交流したり、家族の協力も得ながら長年馴染んだ理美容室に出かけたり、夕方近くまでの帰宅を支援する等、関係継続の支援がされている。希望により、道の駅などへの外出も計画されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座って頂く席の配慮を行い、交流が持ちやすい環境作りを行っています。また定期的に席を替わって頂いたり、空き時間に職員と一緒に他のテーブルで交流を持てるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様との面談の場を利用して、入居されている間のみが支援の対象期間ではなく、気軽に相談して頂けるように説明しています。また入院により退去された方にも、退去時に何かあれば連絡いただける様に説明しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日中の空き時間を利用して、個別にコミュニケーションを図っています。また言葉によるコミュニケーションだけでは把握できない想いを、表情などから汲み取れるように対応しています。	入居時の情報だけでなく、利用者と同じ目線での会話や他愛ないおしゃべり、口調やつぶやき、表情の変化、ちょっとした行動などからも利用者の心情を推しはかっている。担当者は状況報告書に利用者の希望や言葉等を記入し、職員全員が共有して、その方の支援にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時に出来るだけ時間をかけ、ご本人やご家族から聞き取りを行うと共に、利用されているサービス提供者からも具体的な聞き取りを実施しています。また面会時などにご家族から新たな情報が効きだせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の健康状態や生活習慣に配慮し、一日の生活リズムの形成が出来るように日々観察を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	健康状態やご本人・ご家族の思いに答えられるように、主治医・訪問看護師・ご家族との情報交換を重視し、得た情報によりご本人らしい生活が形成出来るように計画書の作成に努めています。	利用者および家族の生活に対する意向を踏まえて、総合的な支援の方針が立案されている。支援方針に基づき、具体的で実現可能なサービス計画書が作成されている。計画所は全職員が共通理解しており、同じ歩調で支援に臨んでいる。評価と見直しも定期的、または状況の変化に応じて柔軟に見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り時等に情報の共有を図ると共に、ケアの見直しについて意見交換を行っています。また計画見直しについての必要性についても聞取りを行い、現状に則した介護計画書の作成に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応を中心として、ご本人やご家族の思いに答えられるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在新しいボランティアとの繋がりを模索しており、今後は地域の交流に職員や入居者が参加する事が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居以前からの主治医に訪問診療 を継続して頂いたり、適切な診療が 行える環境をつくるため、主治医の 変更をご本人やご家族様と検討して います。	利用者及び家族が希望する病院での 受診支援である。受診には家族の付き 添いだが、都合がつかない時は職員で 支援している。協力医療機関とは、何 時でも受診や相談ができ、定期的な往 診や健康診断が行われている。熱発の 利用者には、主治医と連絡を取り、適 切な指示による支援が行われていた。 夜間は訪問看護での支援である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよう に支援している	訪問看護員との情報交換を適切に 行い、報告書を基に全職員が把握 できるように努めています。また、主 治医やご家族様にも適切に報告で きるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が多数あり、入院時 の付き添いやご面会等で医療機関 との情報交換や相談に努め安心し て治療を受けられる様に支援を行っ ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人とご家族様に対して 看取りの取り組みの説明と、希望を お聞きしています。また必要に応じ て再度の説明と希望の聞き直しや 主治医との情報交換も行っていま す。	指針を基に入居に際して、利用者と家 族が納得できる話し合いが行われてい る。これまでに看取り介護の事例も数 例あり、看取りを希望する家族には、状 況の変化に応じて家族や主治医、看護 師、関係者と緊密に連絡を取り合い、 連携しての対応である。夜間の看取り にあたっては、夜勤職員の心の負担軽 減の工夫に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて、救命講習等の研修を行ったり手当や対応のマニュアルをファイルにして書棚に置いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っており、地域の方の参加もして頂けており災害時のマニュアルをファイルにし書棚に置いています。消火設備点検も定期的に行っています。	地域住民の参加も得ながら、防災計画に基づいた夜間の火災想定通報訓練も含めた避難誘導訓練が行われている。年2回の訓練だが、消防署の指導も受けている。自然災害に対するマニュアルもあり、水・食料の備蓄もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の入居者様に合わせた声かけを実施しており、その方の生活歴の把握や思いを尊重できる対応を行っています。	利用者の人格、尊厳性、尊重を第一にしている。一人ひとりのこれまでの生きてきた生活歴や思いを大事にした支援である。利用者との適度な距離を保ちながらの優しく温かみのある言葉かけや共感のある会話、自然だが尊敬の念がある呼称や接遇が見受けられた。個人情報管理もきちんと守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のささいな会話にでも、出来るだけ自己決定が行えるような声かけを行い。発語が難しい方でも、複数の選択が行えるような声かけを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務内容に余裕を持つことにより、職員一人一人が臨機応変に対応できる環境づくりを行っています。またご本人の思いを汲み取れるような対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みに合わせた洋服選びなど、職員と一緒に楽しんで頂けるように配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間にご本に好みの間取りを意識した声かけの実施等を行い、得た情報を活かせるように支援しています。	利用者と関わる時間を多くするために、副食は下の階の厨房で調理されたものが提供されている。主食と配膳はホームの台所で行っている。献立は、利用者の好みや食事形態に応じて管理栄養士が立てている。視力が不自由で食事介助が必要な利用者には、声をかけながらの食事支援の様子も見受けることができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事を毎回記録する事により、一人一人の摂取量の把握を行い、適切な摂取量の確保に努めています。また様々な習慣に合わせた飲物などの提供に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の残存機能に合わせたケアを行い、口腔衛生の確保に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を活用して、一人一人の排泄パターンを把握する事に努めています。また状態の変化に合わせて使用するパットの変更などを常に意識したケアを実施しています。	綿密な排泄チェック表や観察等によって、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣が把握されている。尿意を察しての柔軟なトイレ誘導、パットや布パンツへの変更など、自立への支援が行われている。ポータブルトイレを使用している方はいない。入所当初に心的影響から失禁された方もあったが、暮らしが落ち着くと共にそれも無くなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保に努め、体操の実施等を行っており服薬だけに頼った排便コントロールにならないように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日は決定しているが、状態や気持ちに配慮した入浴支援が行えるように努めている。	基本的な入浴日にとられることなく、希望によって柔軟に入浴してもらっている。入浴時間や入浴順等に特別な決まりはなく、ゆっくりとした入浴である。入浴介助専任のパート職員が配置されており、スタッフの負担軽減にもつながっている。冬場は特にヒートショックの防止にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の健康状態や生活習慣に合わせた臥床の促しや介助を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に薬の説明書を見れるようにファイルを行っており、全職員が把握できるように努めています。また状態に合わせた服薬が出来るように主治医と連携を密にしています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人の好みの把握を継続して行い、その好みに合わせたレクリエーションの実施や家事手伝いをしていただける様に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力のもと外出の機会が持てるように支援しています。また職員と短時間の外出レク等を実施する事により、ご本人の希望に沿えるように努めています。	ホームの周辺を散歩したり、日光浴を兼ねて外気に触れたりしている。年間計画による外出やドライブもある。しかし、利用者が歳を重ねた状況や職員配置上の都合で、以前より外出の機会が少なくなっている。	ホームの近くには住宅街や自然の緑が残った散歩道もある。家族や地域の協力も含めて、日常的な外出の機会についての再検討を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は職員が金銭管理は行っているが、ご本人の希望の間取りは継続しており、希望がある時は個別で所持して頂ける様な支援を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人やご家族から希望があればいつでも対応できるように、子機付の電話設備を有しており、希望に合わせて対応できています。また年賀状の作成を毎年一緒に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃を行い、清潔感のある空間を維持するように努めています。またエアコンや加湿器を使用する事により、快適に過ごして頂けるように工夫しています。	三階にあるホームは明るくて、外からの騒音も聞こえない。室内の色調も柔らかく落ち着いた。フローアーには高いテーブル、低いテーブル、ソファーが利用の用途により、効果的に配置されており、利用者はここで思い思いに過ごす時間が多い。玄関の飾りは季節が感じられる。トイレは普通のトイレと車椅子でも余裕をもって用がたせるニカ所がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの一部にソファーを設置して、希望に合わせた対応が出来るように工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた思い出のある物を設置して頂いたり、ご家族の写真を掲示させて頂く事により、居心地の良い空間づくりに努めています。	長年馴染んできた物や趣味の道具や好みの品の持ち込みに家族の協力を得ている。家族が利用者が好きな生花を生けたり、家族の写真を置いたりしている。書道の作品、テレビ、置時計、手鏡、低い机、その他色々な物が見受けられ、利用者がゆっくりと過ごせる所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで障害物なく動ける様にしています。トイレと居室の入口は使用する際になるべく迷われない様にドアの色を分け配慮を行っています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)			
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果	
		↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果	
		↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない